

〈今、ここ〉の態度を重ねて見えたもの

森保香奈恵

フランクलとの出会い

明日が見えない、氣力がわからない、どうしていいのかわからない。

娘は、中学に入学したところから、身体がだるい、肩こり、頭痛など体調の悪い日が増えだし、小児科で“起立性調節障害”と診断された。

「思春期によくあることですから時間が解決します、無理強いはいしないように」と医師から助言されたこともあり、様子を見ながら回復を見守っていたが、夏休みが終わり2学期が始まると、さらに欠席するようになった。

通学路の途中まで一緒に行ってみたりもしたが、学校が見えてくると立ち止まって動かなくなってしまう。

そして、いよいよまったく行かなくなってしまった。

先生やクラスメートの話を聞いても娘が不登校になる原因に誰も心当たりはなく、本人も「学校には行けない、校舎を見るのが怖い」と言うだけで、具体的にどうして学校に行けないのかはわからないと。

ある時彼女がボツリと呟いた。

「生きている意味がわからない。」

私に投げられた言葉なのか、独り言なのか。

聞いてしまったものの、その言葉に親として答えられる何も持っていないことに気づいた瞬間でもあった。

それから頭にこびりつき存在し続けた「生きる意味とは何か」という問い。

そんな状況のなかで、偶然書店で目に飛び込んできたのがフランクルの『生きる意味を求めて』の背表紙。

娘に問われた答えが見つかるかもしれない、と手に取ったのをきっかけに、フランクルの本を読むようになった。

この瞬間が私とフランクル、ロゴセラピーとの結び付きのはじまりだったと言っても過言ではないだろう。